緑の相談所だより

編集・発行
財団法人 旭川市公園緑地協会　旭川市緑の相談所
No.94
発行日　平成17年　6月　1日

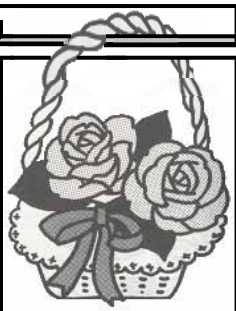
講習会のご案内。

山野草の育て方

と　き：6月12日　日曜日　午後 1時30分 ～ 3時30分

講　師：北海道山草趣味の会　田 中　哲 三 さん

定　員：50名



旭川でのバラの楽しみ方・育て方

と　き：6月26日　日曜日　午後 1時30分 ～ 3時30分

講　師：旭川ばら会　後 路　和 美 さん

定　員：50名

グリーンインテリアを楽しむ

と　き：7月10日　日曜日　午後 1時30分 ～ 3時30分

講　師：旭川市緑の相談所　相談員　佐 藤　吉 光

定　員：50名

鉢花の植え替え

と　き：7月24日　日曜日　午後 1時30分 ～ 3時30分

講　師：旭川市緑の相談所　相談員　伊 藤　征 夫

定　員：50名

電　話　（０１６６）６５‐５５５３　旭川市緑の相談所　まで。

定員になりしだい締め切らせていただきますのでお早めにお申し込みください。
植物の育て方などにつきましてはお気軽にご相談ください。

フ　ジ

マメ科　　Wisteria floribunda DC

　本州、四国、九州等暖地に自生し、全国各地にたくさん庭植えされています。フジは吹き散るの意味があり、大きくヤマフジとフジ（ノダフジ）に分けられます。ヤマは山地、ノダは大阪・野田の地名で古くからフジの花の名所として知られています。

特　　性

　落葉木本でつる茎を旺盛に伸長させ、一般にツルが左巻きを「ヤマフジ」、右巻きを「フジ（ノダフジ）」といいます。
葉は両種とも奇数羽状複葉で小葉に短柄があります。
　栽培品種には白花ヤマフジ、紫紅色の品種や八重咲きのヤエヤマフジの他花穂が１メートル程になるノダナガフジ、白斑のあるニシキフジ等が売られています。
樹勢が非常に強く、家庭では棚に誘引して花を観賞します。

植え場所と管理

粘土質の湿潤地を好み、日あたりを好みますが、やや日陰の所でもよく生育します。植え付けは早春がよく、植え穴は大きく広くして腐葉土を十分に入れるとよいでしょう。
　フジの花芽は今年伸びたツルの基部の葉腋数節に夏から秋までの間に作られます。今年の花が終わってからツルが盛んに伸びだすので、かなり伸びだしたところでツルの先を摘心する程度しておいて、秋の落葉後に今年伸長した新しい枝の３～４(５)節のところを切り落とします。この頃は葉芽と花芽は容易にわかります。
　旭川地域では幼木は棚から落として雪の下で越冬させたり、大きな木は棚上でコモ巻き等の防寒資材を使うと凍害による蕾の枯死を防げます。
　緑の相談所正面のパーゴラでは昨年は６月８日頃に花が満開になり、甘い香りと紫色の花が来場者を楽しませてくれました。

展示室の植物たち　シリーズ「２」

ハイビスカス

アオイ科　ヒビスクス属　Hibiscus CV

【 ６月の声と共に温室内は南国の地。熱帯植物は生育旺盛！！ 】

　太陽の情熱を受けて赤々と華やぐこの花は、南国を代表する植物のひとつです。ムクゲ等と同じアオイ科の常緑低木で原産地は中国やインドといわれていますが、ハワイの州花、マレーシアの国花として有名です。日本では奄美大島や沖縄等で地植えが見られますが、一般的には鉢植え花木として好まれています。
　栽培品種としても多種多様の花が多く３００種以上の流通があるといわれています。
緑の相談所の温室内でも数種の鉢花が咲き誇っています。

6月の園芸作業

1　鉢 花（草花）類

☆　まだ温度変化が大きく安定しないので生育状況をよく見て水やりや肥料を与えましょう。
☆　挿し芽　→　新梢の基部を切り、芽の先の部分は切り詰めて挿し芽しましょう。
☆　球根堀り上げ　→　チューリップは葉が黄ばみ始めたら、茎葉をつけたままで掘り上げましょう。
☆　マルチング　→　エゾスカシユリ等のユリ類の根に直接日光が当たる場合は、生育不良になりやすいので刈り取った草等を敷きましょう。
☆　球根類の定置　→　グラジオラス、ダリア、リヤトリス等は花壇かプランターに植えましょう。

2　庭　　木　　類

☆　花木類の剪定　→　ライラック、コデマリ等は花が終わったら切り詰めましょう。
☆　落葉樹の移植と定置　→　新芽が伸び過ぎているのを移植する場合は、伸びすぎた芽を摘み取りましょう。
☆　終わった花の摘み取り　→　ツツジ、ボタン、フジ等の花が終わったら花茎ごと摘み取りましょう。
☆　花木類の追肥　→　花摘みが終わったら直ちに追肥しましょう。
☆　常緑樹の移植　→　イチイ、マツ類、エゾマツ、トウヒ等は移植の時期です。枝が多く伸びているものは枝透かしや芽摘み等して移植しましょう。
☆　芽摘み　→　マツ類は勢い良く伸びる新芽から折り、数日をかけ一度に摘み取らないようにしましょう。
☆　マルチング　→　バラ、ボタン、シャクナゲ等は根の乾燥を嫌うので腐葉土等を根際に敷きましょう。

3　洋　ラ　ン　類

☆　シンビジウムとデンドロ（ノビル系）は日中温度１５℃以上、カトレアは最低気温が１５℃以上になれば戸外に出しましょう。
☆　コチョウランは室内でレースのカーテン越しに置き乾いたらたっぷり水やりをし、肥料は１０００倍に薄めた液肥を１０日に１度程度与えましょう。
☆　シンビジウムは水分を好むので２～３日に１回、水やりをし、１週間に１度１０００倍に薄めた液肥を与え、デンドロは乾いたら水やりをし肥料も１０日に１回与えましょう。

7月の園芸作業

1　鉢 花（草花）類

☆　日常の管理　→　鉢植えの場合、晴天日はよく乾くので朝夕２回水やりをしましょう。
☆　病害虫の駆除　→　よく茂り過ぎると内部が蒸れて病気が発生します。殺菌剤で予防しましょう。
☆　種まき　→　ハボタン、パンジー、デージーは種まきの時期です。準備しましょう。
☆　掘り上げた球根→網袋に入れて秋まで貯蔵しチューリップは青カビに注意しましょう。
☆　宿根草の株分け・挿し木　→　ジャーマンアイリスやハナショウブは３～４年毎に植え替えましょう。シバザクラは株の若返りを図るため、花後新芽の伸びが止まった頃、先端７～８ｃｍを刈り込み整理し、刈り取った新芽は挿し木しましょう。

2　庭　　木　　類

☆　整枝・剪定　→　生垣等の刈り込みが終わった後は徒長枝は剪定をしましょう。
☆　花柄摘み　→　シャクナゲ等は花が終わったら直ちに花茎から摘み取りましょう。
☆　緑枝ざし　→　春から伸びて生長が止まった枝を切り詰めて挿し木しましょう。
☆　花木類の花芽分化　→　ライラック、レンギョウ、フジ、ツツジ等の翌年花となる芽が、茎頂や葉えきに出きる時期なので油粕等のチッソ肥料は与えないで、リン、カリを多く含む肥料を与えましょう。
☆　病害虫の防除　→　リンゴ等の果樹にモモシンクイガが発生します。７月上旬には殺虫剤をかけ予防しましょう。また、実が腐ってくる灰星病等も発生しますので殺菌剤で予防しましょう。

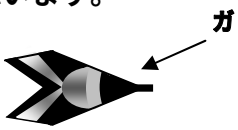
3　洋　ラ　ン　類

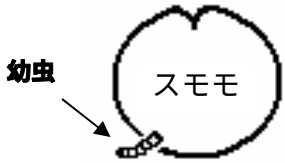
☆　日常の管理　→　カトレア、オンシジウム、デンドロビウム等戸外に出せるものはなるべく外に出し、寒冷紗等の下で吊るか棚上で育てましょう。
☆　水やり　→　種類によって育ち方が違うので機械的な与え方はしないで朝７～８時頃に与えましょう。シリンジ（葉水）は朝夕２回行いましょう。
☆　施肥　→　安心して肥培できる時期です。液肥はリン、カリの多いものを１５００倍位で与えましょう。
☆　根を傷めた株の処置　→　根腐れした場合は直ちに鉢から抜き、新しい水苔で植え替えましょう。
☆　デンドロビウム　→　止め葉の発生する時期です。発生したものは肥料を中止し、置肥がある場合は取り除きましょう。

スモモの虫喰いを防ぐには!!

桜の花が終わりスモモやリンゴ等の果樹の花が咲き間もなくその実が色づいていくのですが、この頃になると、スモモの青い実が落ちて中を見ると虫が入っているという悩みが多く寄せられます。これは、モモシンクイガ等の幼虫の被害です。この防除を怠ったり、防除のタイミングを外すと期待した収穫が皆無になってしまうことも珍しくありません。

今回はこの防除について述べたいと思います。





１　スモモの実を喰う虫

スモモの実を食害する虫には、モモシンクイガとスモモヒメシンクイガの幼虫の２種類があります。最初に発生するのはスモモヒメシンクイガです。この虫は前の年に実の中で成長した幼虫が外に出て土の中で繭を作り越冬します。そしてスモモの花の終わる頃から６月上旬までに羽化し実の表面に産卵します。卵は２～３日で孵化して実の中へ喰い入り食害します。

次に発生するのが、モモシンクイガです。これは前の年に実の中で成長した幼虫が繭を作って越冬するのは前者のスモモヒメシンクイガと同じです。羽化し産卵し始める時期が遅く６月下旬～７月上旬ですが、実への食害は同じです。ですからスモモが食害を受ける時期はスモモの花が終わる頃から６月上旬頃と６月下旬から７月上旬頃の２回あります。この産卵された卵から孵化した幼虫が実に入り込む前に防除することが大切です。

２　スモモの虫喰いを防ぐ

スモモの虫喰いを防ぐには前記にした２回の時期に殺虫剤を次のように散布します。

１回目　→　スモモの花が満開して一部が散りかけた頃から６月上旬までの期間、３～４日おきに３回程度殺虫剤をかけます。

２回目　→　６月下旬から７月上旬までの期間、３～４日おきに３回程度殺虫剤を散布します。

以上のように一定期間を３回程度散布するのは、羽化した成虫が発生する期間と薬剤の効力の期間の関係でこのようにします。その期間１回のみだとその後の産卵で被害を受けることになるからです。また、殺虫剤の選定については薬剤利用説明書を熟読してスモモやモモが対象の薬品であることと、回数制限を確認して選んでください。

３　被害を受けて落下した実の処理

被害を受けた実は落下しますが、その実の中にはまだ幼虫がいて、やがては出てきて繭を作り越冬します。ですからそのまま放置すると来年の発生を助長することになりますから、落下した実を発見したら直ちに畑から出して処分します。

（ビニール袋に密封して直射日光当てたり、土の中深くに埋めたりして処分しましょう。）

参考文献　（果樹試報 C15:49-64,1988　原色果樹病害虫百科５）